

財団法人かめのり財団
第2回中学生交流プログラム
【韓国】

平成22年10月3日～10月10日

使節団派遣実施報告書

平成22年11月5日



社団法人国際フレンドシップ協会

中浪中学校訪問、交流、文化紹介



一泊二日事前研修



ソウル市内見学



檀國大學校訪問



KBS ドラマセンター

帰国、解団式



も く じ

口絵 (1)~(2)

まえがき

I. 「第2回中学生交流プログラム」について	2
II. 韓国訪問団日程	3
III. 団員名簿	4
IV. 活動の記録	5
・ 2010年10月 3日 結団式、事前研修	
・ 2010年10月 4日 韓国到着、ソウル市内見学	
・ 2010年10月 5日 中浪中学校訪問、交流、日本文化紹介	
・ 2010年10月 6日 ソウル市内見学、国会議事堂訪問	
・ 2010年10月 7日 水原地域散策、KBS ドラマセンター訪問	
・ 2010年10月 8日 檀國大学校訪問、日本文化紹介	
・ 2010年10月 9日 ロッテワールドでの交流、民族博物館	
・ 2010年10月 10日 帰国、解団式	
V. 感想文	10
・ 中学生交流プログラムに参加して	樋口 恵茉 10
・ 中学生交流プログラムに参加して	酒井 美晴 10
・ 中学生交流プログラムに参加して	篠原 真優 11
・ 中学生交流プログラムに参加して	吉川 綾美 11
・ 今までにない八日間	川上 浩市 12
・ 韓国をやって	湯沢 直子 14
・ 韓国で学んだこと	伊佐 真理奈 14
・ 中学生交流プログラムに参加して	鈴木 萌斗 15

奥付

まえがき

かめのり財団「第2回中学生交流プログラム」(韓国)は、2010年春に団員募集を開始し、全国から27名の応募があり、書類審査と面接審査を経て、9月はじめに8名の団員が決定しました。

ここに各団員からの感想文と海外研修の一環で担当した日にちごとの報告書を小冊子にまとめ、記録にとどめます。

参加団員が10日間の軌跡を振り返りながら、互いの見方や感じ方を学ぶとともに、訪れた韓国の地と温かく迎え入れてくださった学校やホストファミリーの方々、出会った人々のことを、そしてそこで各自が感じ、考え、誓ったことをもう一度思い出してほしいと思います。

また、Web等をとおして本小冊子をご覧になった方々が、韓国について、さらにはご自身の国際交流について考えるきっかけになればとスタッフ一同心より願っております。

2010年11月

社団法人国際フレンドシップ協会

I. 第2回中学生交流プログラムについて

財団法人かめのり財団は、平成18年（2006年）4月に文部科学省の許可を得て設立されました。財団名は、創設者・康本健守（やすもとけんもり）の父・亀範（かめのり）に由来します。活動目的は、日本とアジア・オセアニアの若い世代との交流を通じて、未来にわたって日本と各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、その懸け橋となる人材の育成を図ることにあります。

中学生交流事業は昨年度に開始し、アジア・オセアニア各国に日本の中学生を派遣する事業です。第1回は、平成22年3月に中国に中学生7名を派遣しました。第2回の平成22年度は日本の中学生を韓国に派遣し、同世代の中学生や現地の人たちと様々な形で交流し、相互理解を図るとともに、外国語を学ぶことの意義や異なる文化間でのコミュニケーションの重要性、韓国の歴史、社会、文化、教育等に対する理解を深めてもらいたいと思います。

さらに、韓国の中学生にも日本に対する理解を深めてもらいながら、両国の友好関係の促進を図ることが目的です。

外務省所管、昭和44年（1969年）創設の**社団法人国際フレンドシップ協会（IFA）**では、25年間、「ジュニア大使友情使節団」（小学5年生から20歳未満の学生）の海外派遣を訪問先公的機関の後援で行っており、今年度より、財団法人かめのり財団より本事業の実施運営を依頼されました。

IFAは、今回の研修旅行の参加者が韓国での生活体験と交流活動を通して国際理解と友好の精神を体得し、将来広い視野をもち国際社会で活躍してもらいたいと願い、実施運営を担当します。

■関係機関

主 催	財団法人かめのり財団
実 施	社団法人国際フレンドシップ協会
受 入	韓国ソウル市中浪中學校

■実施期間

平成22年10月3日（日）	都内前泊	事前研修
平成22年10月4日（月）	～10月10日（日）	韓国研修、 <u>全7泊8日</u>

■団員 8名（全国公募により、作文審査と面接審査により選抜）

Ⅱ. 韓国訪問日程

	月日	都市	時間	交通	内容	宿泊
1	10/3 日	東京	13:30		集合、結団式 事前研修（韓国事情、国際マナー とエチケット、渡航安全対策等）	東京泊
2	10/4 月	東京 ソウル	08:20 10:40 午後	JL091 専用バス	羽田空港発 金浦空港着 昼食後、ホテルへ 市内見学（ソウルタワー）ほか	ホテル泊
3	10/5 火	ソウル	終日 夕刻	専用バス	中浪中学校訪問・交流 （授業見学、日本文化紹介、 日本語学習生徒との懇談ほか） ホストファミリーとの出会い	ホームステイ
4	10/6 水	ソウル	午前 午後	専用バス	市内見学（歴史、文化） 景福宮ほか 韓国議会見学、Young-Sun SONG 議員事務所表敬訪問	
5	10/7 木	水原	午前 午後	専用バス	移動（ソウル→水原） 市内見学（華城、水原地域散策）	ホテル泊
6	10/8 金	水原	午前 午後	専用バス	檀國大学校 （施設見学、食堂での昼食、日本 文化紹介ほか） 市内見学（KBS ドラマセンター）	ホテル泊
7	10/9 土	ソウル	終日		生徒がホテルに集合 生徒とともにロッテワールド、 民族博物館見学	ホテル泊
8	10/10 日	ソウル 東京	08:00 11:55 13:55 15:00 15:30	専用バス JL092	空港へ 金浦空港発 羽田空港着 空港にて解団式 解散	

Ⅲ. 団員名簿

NO	氏 名	男女	県	学 校 名	学年
1	樋口 恵菜	女	東京都	千代田区立九段中等教育学校	中 3
2	酒井 美晴	女	神奈川県	カリタス女子中学高等学校	中 3
3	篠原 真優	女	東京都	跡見学園中学校	中3
4	吉川 綾美	女	三重県	四日市市立塩浜中学校	中 1
5	川上 浩市	男	千葉県	千葉縣市原市立辰巳台中学校	中 3
6	湯沢 直子	女	栃木県	栃木県鹿沼市立北犬飼中学校	中 2
7	伊佐 真理奈	女	沖縄県	琉球大学教育学部附属中学校	中 1
8	鈴木 萌斗	男	東京都	立教池袋中学校	中 3
9	団長 山本 伸	男		社団法人国際フレンドシップ協会 講師	

IV. 活動の記録

◆2010年10月3日（日） 結団式、事前研修

10月3日のお昼、東京にあるホテル“JALシティ田町”にて、団員、保護者の方々その他の関係者のみなさまが集まり結団式が行われた。団員の代表として団長の前で私は、決意の言葉をのべた。所々はさまれた休けいで団員の方々と話して東京や全国のいろんな場所から集まっていることを改めて感じた。

その後、結団式のみのお出席である保護者の方々はお帰りになり、事前研修を受けた。韓国語レッスンでは基本的なあいさつや自己紹介などを申先生に習った。その後、国際マナーやエチケットなども学び、自分が今まで知らなかったこともたくさんあった。

夕食時には、実際に食べながらテーブルマナーについて教わり、これからの生活で役立つなと思った。夜の8時頃に、韓国で訪問する中学校での文化紹介の練習をした。みんなで歌を歌うというのは初めてなのにとってもまとまりうれしかった。明日から韓国だと考えるととても緊張した一日だった。

(樋口 恵菜)

◆2010年10月4日（月） 韓国到着、ソウル市内見学

朝は5時起床で、つらかった。しかし、眠気よりもこれからへの期待の方が大きかった。

羽田空港では、まだ古い頃の国際線ターミナルから出発した。初めて外国に行く人は、飛行機にドキドキしていたようだった。

金浦空港へ到着。初めての韓国上陸に感動した。空港はキムチの匂いがすると聞いていたが、それはなかった。

バスに乗ってソウルタワーへ移動。標識や看板がハングルなのを見て、韓国に来たことを実感した。ソウルタワーの展望台からは、ソウル市内が見渡せて、緑の多さとビルの多さに驚いた。青瓦台も見えた。ここには「最高のトイレ」があり、おもしろかった。天気が良いければ北朝鮮まで見えるらしいが、良い天気ではなかったので見えなかった。

昼食は石焼ビビンバを食べた。日本人客がたくさんで、メニューにも日本語が書いてあった。韓国の金属の長い箸やスプーンが当たり前に置いてあり感動した。キムチの味も、おいしくてこれが本場の味なのかと思った。

景福宮へ移動。ずっと行ってみたかった所なので、やっと思ってうれしかった。

た。中には同じような建物がいくつもあって、私がここで暮したら毎日迷子になると思った。建物の色は、日本と同じ朱色だが模様にはたくさんの色が使われていた。

南大門市場へ移動。南大門は修理中で見ることができず、残念だった。市場では、日本語の多さに驚いた。店の人が、日本語で話しかけてきて、日本人客の多さが想像できた。店の人と、韓国語で簡単な会話はできた。中には、値下げに挑戦し、成功した団員もいた。

ホテルに到着。夕食はバイキングで日本食がたくさんあり、一瞬韓国にいることを忘れかけた。部屋では、テレビのチャンネルの多さと、日本のアニメがやっていることに驚いた。ホームステイホストのプリントをもらい、次の日の中浪中学校訪問にドキドキしながら眠った。

(酒井 美晴)

◆2010年10月5日(火) 中浪中学校訪問、交流、日本文化紹介

韓国に着いて2日目の火曜日。私たちは、中浪中学校に行きました。中浪中学校に着いたとき、沢山の生徒の子が「こんにちは」とあいさつしてくれました。とても嬉しかったです。韓国の男の子は、ジェントルマンで、私たちの重いスーツケースを持って運んでくれました。日本の男の子も、これくらいジェントルマンだったらなと思いました。中学では、英語と体育の授業を見学させてもらいました。授業は、日本とすごく似ていました。その後、ホームステイ先の子との顔あわせをしました。私たちはドキドキで、ホームステイの子達が待っている部屋に入りました。ホームステイの子達は、ニコニコで待っていてくれました。みんなよさそうな子ばかりでとても安心しました。私のホームステイ先のハンナは、その中でも一番静かでシャイな子で、すごく心配でしたが、話している内に打ちとけていくことができました。本当に良かったです。それぞれ、自己紹介が終わったらみんなで給食を食べに食堂に行きました。中学の給食は、韓国で食べた物の中でも一・二を争うおいしさでした。

放課後、いよいよ文化紹介です。直子の剣道と真理奈の琉舞そして浩市の三味線で無事に終わりました。その後、日本語を習っている生徒達と、折り紙でだまし船を折って遊びました。そして、みんなそれぞれのホームステイの子と家に帰りました。私はその後、ハンナとハンナの友達と十時半まで遊びました。

今回の研修で、中浪中学校が一番韓国についてよく分かった所でした。先生も生徒もとても親切で、すごく楽しかったです。

(篠原 真優)

◆2010年10月6日（水） ソウル市内見学、国会議事堂訪問

今日はホームステイの子とその子のお母さんと学校へ行きました。もうここで家族とお別れだと思つと、すごく悲しかったです。もつとずっと一緒にいたかったです。お母さんは、すごく親切で我が子のように接してくれました。校門の前でハグをして、最後に「サランヘヨ」と言つて別れました。涙が出るほど感動しました。

それから国会議事堂に行きました。残念ながら女性議員に会えなかつたけれど、韓国の国会図書館へ行きました。本がたくさんおいてありました。小学生などの観光客がたくさんいました。誰でも国会に入れてすごいなと思つました。議員さん一人に6人くらいの秘書がいました。韓国には200名以上の議員さんがいるそうです。

韓国の国会議事堂は、緑色の丸いものが上についていました。他の高層ビルの中に、ポツンと緑色の丸いものがあつておもしろかったです。

（吉川 綾美）

◆2010年10月7日（木） 水原地域散策、KBS ドラマセンター訪問

この日の団員達は7時に起床し、8時頃に朝食を食べた。それから準備をし、9時にホテルを出発した。

しばらく高速度道路を走っていると、沢山、マンションがずらりと並んでいるニュータウンが見えてきた。

バスに乗ること1時間半、水原に着いた。そこは、NHKでも放送されていた「チャングムの誓い」のロケ地でもある。そこで武芸の実演を15分くらい見た。

昼食を食べ。次は華城に行った。そこは山城となつており、頂上からは、8年前に行われた、サッカーの世界カップの時につくられた競技場が見えた。景色はとても綺麗だった。

華城を出発し、次はKBSのドラマセンターに行った。そこには、日本ではあまり知られていない俳優さんが沢山いた。さらに、ドラマの撮影で使うセットが外に数えきれない程そろつていた。そのセットでは、日本でも有名なチャン・ドンゴンなどの俳優さんもよく撮影に使つているそうだ。

その日に撮つた映像を1つのストーリーにまとめるのにかかる時間は1日だそうだ。日本のドラマは週に1回放送されるが、韓国のドラマは週に2回され、韓国のスタッフやキャストの人の方が忙しいそうだ。それから、合成の映像を見せてもらった。合成映像には必ず色の付いたバックスクリーンがあり、日本

の場合は緑色だが、韓国は青色を使っているそうだ。団員も体験させてもらったが、大変貴重な体験だった。

ドラマセンターを出発した後、韓国式のしゃぶしゃぶを食べた。

この日も、貴重な体験をさせていただいたが、日本ではめずらしいセットなどを見ることができた。

華城は日本の城と構造が全く違い、非常に堅固な城だと感じた。

(川上 浩市)

◆2010年10月8日(金) 檀國大学校訪問(文化紹介、学食、博物館)
夕食(うどん)

とても大きい規模の大学で、日本よりも充実した設備だった。学部は法学部、経済学部、5学部などあまり日本とは差がなかった。学校の敷地内には、滝やバスケットコート、テニスコートなど、日本の大学にはなさそうな設備もあった。機会があれば留学してみたい。

文化紹介では、歌、三味線、琉球舞踊をした。生徒の方々は歓声をあげてくれたのでよかった。

(湯沢 直子)

◆2010年10月9日(土) ロッテワールドでの交流、民族博物館

私は、10月9日の土曜日にホスト生徒へのお別れ挨拶をしました。前日の夜に、同室の子といっしょに考えて、挨拶ってどういう風に考えればいいのか、などと、とても文を作るのに困りました。でも、最初の一行を書くと、スラスラ書けてきて、あっという間に書き終わりました。そして、翌日の発表のために少し、読む練習をしました。挨拶の練習が終わった後、私には、まだやるべきことがありました。報告書担当です。ホスト生徒へのお別れ挨拶と同じ日に報告書担当がありました。ベッドで、明日、どういう内容を書こうか考えていました。

翌日、私はロッテワールドでホスト生徒へのお別れの挨拶をすることになりました。前日の練習通り、落ち着いて読むことができました。その日の夜、ホテルの部屋で報告書を書きました。ホスト生徒との別れのことについて書きました。また、ロッテワールドでホームステイの子以外にも友達ができうれしかったことなどを書きました。

(伊佐 真理奈)

◆2010年10月10日（日） 帰国、解団式

いよいよ最後の日になった。たくさんの思い出を胸に僕らは帰国する。

7時半 起床、荷物パッキング

8時 朝食（バイキング）

9時 金浦空港へ向かう

12時 金浦空港より日本へ離陸

機中昼食（和食）

2時 日本羽田空港到着

3時 羽田空港で解団式

①帰国歓迎挨拶および引率者紹介（かめのり財団／西田事務局長）

②団長帰国報告（山本団長）

③団員帰国報告（伊佐真理奈、酒井美晴、吉川綾美）

④団長へのお別れ挨拶（団員一人ひとり前に出て握手）

⑤配布書類の説明（IFA）

・お礼状、アンケート、感想文

・役割分担（日誌）

⑥解団式終了

3時半 解散

本日で僕らの全プログラムが終了した。結団式の時は、8日間も韓国に行くなんて長い日程だなと思ったが、振り返ってみるとあっという間に8日間だった。最後には皆別れがたく、写真を撮ったりメアドを交換した。また会おうと約束して別れた。

山本団長やかめのり財団の西田さん、国際フレンドシップ協会にはたいへんお世話になった。ありがとうございました。

（鈴木 萌斗）

V. 感想文

中学生交流プログラムに参加して

東京都千代田区立九段中等教育学校 3年
樋口 恵菜

私は、このプログラムに参加するにあたり、してみたいと思っていたことがありました。それは“韓国の同世代の方々と文化の交流をする”ということです。それを実現できたのがこの研修で一番うれしかったことだと思います。また、自分も韓国の文化に実際に触れることができました。印象に残っているのは、日本語を話せる方がとても多かったことです。市場やお店でも日本語が通じることが多くおどろき、日本からの観光客が増えているのだろうと考えさせられました。

ホームステイでは、とても貴重、かつ初めての体験を通して、国どおしが近くても文化や生活スタイルはこんなにも違うことを改めて感じました。

この研修をきっかけに、今までよりも韓国に興味を持つことができて良かったです。そして、いろいろと学んだことを学校生活に生かしていきたいと思います。

中学生交流プログラムに参加して

カリタス女子中学高等学校 3年
酒井 美晴

私は一番中学生との交流を楽しみにしていました。でも、言葉が通じるかなどの不安もありました。しかし、実際交流してみると言葉の壁はあまりありませんでした。困った時にはジェスチャーを使ったりして、会話も楽しめました。ホームステイホストとも、その友達とも仲良くなれてうれしいです。これからも交流を続けたいと思います。

そして、ソウル市内を見て驚いたのは、歴史的な建物がたくさんあったことです。都会のソウルの中に、どうしてこんなにたくさんの土地があるのか不思議でした。東京と比べると道路も広く、ごみごみしてなくて、日本より小さい国なのに広く感じました。

この研修で、たくさんの人と関わったことをとてもうれしく思います。団員とは、いつかこのメンバーでまた韓国へ行こうと約束しました。学校では、私

のレポートが生徒に配られます。私の貴重な経験をたくさんの人に広め、私自身ももっと学びたいと思いました。

中学生交流プログラムに参加して

跡見学園中学校 3年
篠原 真優

私は今回の研修で韓国のイメージが、がらりと変わりました。韓国人は大きな声でしゃべって恐くて、冷たいイメージがありましたが、私のホームステイ先の子やその友達、私に合わせて頑張って日本語を話してくれたり、韓国のことを沢山教えてくれました。日本語も英語も通じない時は、ジェスチャーでお互いの言いたいことも確認しました。言語は違っても分かりあえるということがよく分かりました。おみやげ屋さんの人も日本語で商品の説明をしてくれました。韓国人は日本語が上手く、本当にすごいなと思いました。私も、次に韓国に行く時は韓国語をできるだけ覚えて、ホームステイの子たちに、会いたいなと思います。今回はこんなに良い体験させてもらえて、本当によかったです。

中学生交流プログラムに参加して

三重県四日市市立塩浜中学校 1年
吉川 綾美

私が韓国へ行き、強く心に残ったことが二つあります。

一つ目は、市場です。韓国には、たくさんの市場がありました。たくさんの人がいて、たくさんの品物が売っていました。お店の人のほとんどの人から日本語で話しかけられ、いかに日本人観光客が多いかということを感じました。市場には、のり、化粧品、カバン…いろいろな物が売られていて、おどろきました。私たちに対して、一生懸命日本語で話してくれたり、「もっと安く」とお願いするととても安くしてくれました。とても安く、ついさいふのひもがゆるんでしまいました。韓国の市場はお店の人がとても優しく、温かかったです。

二つ目は、中浪中学校です。とても生徒の人数が多く、おどろきました。みんなが窓にはりついて私達を見ていたので、スターになった気持ちでした。学

校の面積がとても広がったです。日本では部活が放課後あるけど、韓国にはないと知っておどろきました。いろいろな所で、日本と比べるのがおもしろかったです。文化紹介の時に、大勢の生徒が一生懸命話を聞いてくれてうれしかったです。

とても楽しくあっという間の一週間でした。とても貴重な体験ができてうれしかったです。韓国と日本のかべは厚いようでした。食文化など文化のちがいがあって、慣れるのに少々時間はかかったけれど韓国はこうなんだと分かって本当に良かったです。このすてきな国にまた行きたいです。

このプログラムで外国との交流の大切さを知ることができました。この体験を生かしてこれからもいろいろなプログラムに参加したいです。

今までにないこの八日間

千葉県市原市立辰巳台中学校 3年
川上 浩市

今回中学生派遣プログラムに参加させていただき、実に貴重な体験を沢山させていただいた。

団員に選ばれたと知った時、とても嬉しくて仕方がなかった。両親や祖父母も喜んでくれたがその反面、

『自分は8人の団員に選ばれたが、皆と協力してこのプログラムを成功させる事ができるのだろうか。団に迷惑を掛けてしまう事は無いだろうか。』

という不安があった。行きたい！行ける！という喜びと期待は大きかったが、不安も同じくらい大きかった。

そんなことを思いながらも準備を進め、当日を迎えた。初日は東京で事前研修があり、メンバーは初めて会った人ばかりで、とても緊張してしまい、団員と話すことすらできなかったが、

『他の団員の人達は皆、仲が良さそうだ。自分もこの中に入りたいなあ。』
そう思っていると、

「あの、三味線で日本一になった方ですね。すごいです。」
と声を掛けられ、いっぺんに気持ちが楽になった。

翌朝、準備をして空港のロビーに向かい、飛行機に搭乗して2時間ほど過ぎたころに、窓から韓国の山並みや街並みが見えてきた。その時、私はずっと憧れていた韓国に来ることができた嬉しさが込み上げてきた。空港に着き、そこからバスに乗って最初に向かったところが、南山ソウルタワーだった。しかし、

ここで私は、パスポートなど貴重品が入ったバッグをバスに忘れてしまい、山本先生に怒られて恥ずかしい思いをしてしまった。

『これから八日間こんなことが無いようにしないといけない。』

と気を引き締め反省していた。

2日目は、バスで中浪中学校に着いた時、大歓迎を受けた。何故か私は女子の学生さんに大変人気があったそうで、とてもびっくりしてしまった。校内で学生さんたちとの文化交流会に出席し、三味線を演奏させていただいたが、日本で演奏する時よりもさらに盛り上がって、私もすごく嬉しかった。だがその中で、

「俺は日本が嫌い。」

という人もいて、とても悲しい思いをしたが、

『日本と韓国がお互い同士で様々なことをもっと分かりあえたらこんなことは少なくなるのではないか。』

と思った。

また、檀國大学でも演奏させていただいたが、そこでは韓国語を学んでいる留学生の方々との交流会だった。そこに日本から来た方が4名いらして、その中でお話しした一人の方は、今まで津軽三味線を見たことがなかったそうで、異国の地で自分の国の文化に触れた時、どんな気持ちだったのか聞いてみればよかったと思った。

今回ホームステイでお世話になったユン・ジンヨン君はギターが得意で、その彼とセッションできなかつたことは悔いが残ったが、彼と過ごした時間は、私にとって外国の人と心から打ち解けられた初めての体験で、とても貴重な時間だった。

私は、15年間生きてきた中でこの八日間の経験が一番楽しい経験だったと感じている。私の憧れていた韓国に行くという夢が、山本先生の御指導と団員の皆さんの協力で八年越しに叶い、本当に嬉しかった。

今回、外から日本を見て、私たち日本人はもっと自分の国や外国のことを良く知らなければならぬと思った。そしてお互いに国同士で分かり合えるように努力していかなければと感じた。

今回、お世話になったかめのり財団の皆様をはじめ、山本先生、国際フレンドシップ協会の皆様、在韓中にお世話になった方々に感謝申し上げます。

韓国を Schritte

栃木県鹿沼市立北犬飼中学校 2年
湯沢 直子

私は日韓関係の暗い歴史を知っていたからか、「日本人にはあまり友好的ではなさそう。でも私が韓国を好きになれば何か分かることがあるのでは」。そんな思いでこの事業に参加しました。けれど、実際には友好的でやさしく接してくれたので「韓国の人には私が思っていたより、日本に興味をもってきている。私も韓国のことをもっと知りたい」。こんな思いに変わりました。

それは、たくさんの場所を見て、様々なことを感じたからだと思います。市場や店では、日本語を話せる店員さんと楽しく話すことができたり、中浪中学校の生徒の方々が一生懸命、会話してくれたり、ホームステイ先の家族の方があたたかく迎えてくれたり、といった人の優しさに触れた交流。韓国版の万里の長城のような華城、広い土地に伝統的な模様の大きな建物がある景福宮や宗廟などの韓国の伝統のどこか日本に似た美しさ。この二つがそう思わせてくれたのだと思います。

この事業を通じてのより韓国を知ろうという思いは、今まで見たことない韓国のドラマを見るきっかけになり、また仲間との出会いは、日本での友人が増えるきっかけ、韓国の友人と交流し、文化を共有するきっかけになりました。

この事業で得た「ふみ出すための一歩」を使い、より成長し続けたいと思います。そして、協力してくださった方々へ感謝し続けたいと思います。

韓国で学んだこと

琉球大学教育学部附属中学校 1年
伊佐 真理奈

初めてのホームステイ先で、食事の時、ファミリー全員がひざを立てて食事をしているのを見て驚きました。日本の常識は、韓国の常識ではないのだと思い知りました。習慣の違い、考え方の違いはあるけれど韓国のファミリーはとても温かく、優しくしてくれました。ヒョンキョンちゃんはとても気が利く素敵な女の子で、夜の明洞の町に連れ出してくれて韓国の美しい夜景を見ながらいろいろな話をし、楽しい時間を過ごしました。

韓国で過ごした一日一日はとても充実していてどれも貴重な体験ばかりでした。現地の人と触れ合いお互いの国を理解し合うというのはとても大切なこと

だということがわかりました。この体験は、私の人生の中の大きな財産となりました。この体験を将来生かし国際社会で活躍できるようまた社会に貢献できるようにしっかり勉強したいと思います。

中学生交流プログラムに参加して

立教池袋中学 3年
鈴木 萌斗

僕は10月3日から10月10日まで中学生交流日本韓国プログラムに参加した。参加前は韓国の中学生在がどんなことに興味をもち、日本の中学生とどんな点が違うか肌で感じてみたいと思っていた。

僕の韓国に対するイメージは、「クール」「熱い」という全く両極端なものを持っている国というものだった。なぜなら、ニュースや僕の好きなサッカーの試合などから、常に感じるものであったのだ。

プログラムの中で最も印象に残ったのは、中浪中学校訪問と、檀国大学校訪問であった。

中浪中学校では、日本語の授業に参加させてもらったり、給食を食べさせてもらったりした。教科の種類もクラスの人数も日本と大きく差異はなかった。しかし、韓国では放課後部活動がある訳ではなく、日本語や英語などの学習をしている点が日本と異なり驚いた。サッカーとか、吹奏楽などの活動は個人的活動であり、塾や教室などに通って身につけるものらしい。

檀国大学校は大規模な大学であった。山まるまる一つが大学になっていて学校の中にきちんとした道路があり小さな町になっていた。中には博物館もあり、とにかく広大な施設であり、大学の教育に非常に熱心であることがわかった。

僕が最も気になっていた韓国の中学生的の日常は、ホームステイで知ることができた。ホストファミリーは4人家族で、お父さんもお母さんも共働きだった。子どもは中学2年生のナム・キョン君と、小学4年生のナム・ヒョン君だった。二人とも身体が大きく、相撲をとったら負けていただろう。キョン君とヒョン君とは数独と百人一首の坊主めくりをして楽しんだ。キョン君は日本語を勉強していて日本語で話してくれた。でも、片言の日本語なのでよく分からなかった。僕も片言の英語と、韓国に行く前に少し勉強した韓国語で話した。分からないときは大きなジェスチャーを交えて会話し、なんとか意思の疎通はできたと思う。

ホームステイや中学校訪問を経験して、「クール」「熱い」というものは感じ

られなかった。どこでも皆穏やかで親切に接してくれた。日本人と全然変わらないじゃないかというのが実感だった。たぶん、自分たちはお客様だから、本当のところは見せないのだろうが、それにしても僕のイメージしていたちょっとツンとしたところは全然感じなかった。

たった 8 日間の交流だったが、韓国のにぎやかな町を歩き、優しい人々と話し、辛くて美味しい韓国料理を食べて、僕は韓国が好きになった。今回は韓国語ができなくて、つっこんだ話しができなくて残念だったが、この次に行くときは韓国語を勉強して、同じ世代の人たちと話したいと思う。

また、英語なら、何とか通じることも分かった。韓国なのだから英語は通じないだろうと思っていたので、これも驚いたことのひとつであった。さすがに世界の共通語である。これからは学校の勉強だけでなく、世界を知ること、語学の勉強などにも力を入れたいと思う。

今回、このように韓国を訪問する機会をくださったかめのり財団をはじめ、IFA など多くの方に礼を言いたい。ありがとうございました。

以上

本プログラムに情報提供ならびにご協力くださった皆様に
心より感謝申し上げます。

(順不同、敬称省略)

韓国

韓国日本語教育研究会 監事 文貞善
中浪中学校 校長 金明洙
中浪中学校 副校長 Jon, In-Ho
中浪中学校 受入担当教諭 吳在命
檀國大学校 学部長 Lim, Kyuin Ph.D.
檀國大学校 韓国語 教授 Yoo, So-Young
韓国議会 議員 Song, Young-Sun
韓国議会 Song, Jaewook
ソウル国際教育財団 理事 陳重夏
韓国学中央研究院 教授 Kwon, Heeyoung Ph.D.
韓国学中央研究院 教授 鄭永順
亜州旅行株式会社 部長 金永基
亜州旅行株式会社 通訳 尹英喜
Holiday Inn Seong Buk Seoul 販売室長 河鎬正

日本

財団法人かめのり財団 理事・事務局長 西田浩子
国際交流基金日本語国際センター 副所長 榊原通紀
国際交流基金 申熙晶
財団法人国際文化フォーラム 理事・事務局長 中野佳代子
外務省アジア大洋州局北東アジア課 三木希視代
日本通運株式会社 課長 渡辺雅之
日本通運株式会社 朝岡恵
亜州旅行株式会社 金鐘勲
JAL シティ田町 東京ホテル 営業部担当支配人 荻原洋子

かめのり財団第2回中学生交流プログラム報告書

平成22年11月5日

実施・運営 社団法人国際フレンドシップ協会

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12

麻布台ロイヤルプラザ502号

実施責任者 及川 伊佐子

電話 03(3582)3021 FAX 03(3582)3010

Web: <http://www.ifa-japan.org>